



学校だより

横浜市立朝比奈小学校

令和3年6月30日

第4号



「キュウリがこんなに（手で示して）大きくなってよ」

校長 神田 敏之

朝、私を見つけた子どもたちが話しかけてきました。登校をしたら水やりをするのが日課になっていて、見つけたことを教えてくれました。私がすぐには見に行けない状況を分かっている「後で見せてみて」と付け加える念の入れようです。登校指導が終わって見に行くと、子どもたちが知らせたくなるようなキュウリの成長ぶりでした。

学校では、子どもたちが見つけたこと、気づいたことなどを伝え合う場面を意図的、計画的に設定しています。このときは、どのような観点で観察をしたらよいかの確認や、より伝わるような話し方はどうしたらよいかなどの指導もします。しかし、指導者で設定した時間なので自分が育てている植物の状態によっては、特に知らせたいことが無い、知らせたい思いが無い場合も出てきてしまいます。

今回のように指導者が「気づいたことを知らせましょう」という場面設定をしなくても、子どもが「すごい」「知らせたい」という気持ちをもてば自然に知らせに行きます。どうしてこのような姿が生まれたのでしょうか。キーワードは「自分ごと」です。

4月、2年生は生活科の学習で夏野菜を育てることを決めました。夏野菜にはどのような種類があるか、土づくりはどのようにしたらよいかなどを調べました。その中でそれぞれ自分の思いや願いをもって何の野菜を育てるかを決めました。植木鉢も自分の思いや願いに合わせて準備をしました。

いよいよ苗選びです。園芸店の方に苗をたくさん準備してもらい、複数の中から自分が育てたい苗を決めました。これも「自分ごと」にする仕掛けです。苗によって葉の付き方や大きさも異なります。もし5人の子どもに対して5本だけ苗を用意していたらどうでしょう。最後の子どもは自分で選ぶ余地がなく渡されます。そうすると他の子どもに比べて意欲が半減してしまうことが予想されます。とても「自分ごと」になりません。

自分で選んだり決めたりしていることが「自分ごと」になり、主体的に学習を進めることにつながります。3年生以上は、自主学習に取り組んでいます。こちらも同じ姿をねらっています。宿題として出されたものではなく、自分で問題を設定し、自分で考え調べていく活動です。早く終わってしまう日もあるでしょう。一つのことを一週間かけて解決するときもあるでしょう。この時間の使い方も含めて自分で決めて、行動していくことが大切です。いつもうまくいくときばかりではありません。うまくいかなかったときは修正して取り組むことも身に付けた力です。そのような経験も次に問題設定をするときに活かされていくと思います。